



## Fabrica の由来とあの渦巻はなに？

田村 勝利 (たむらかつとし)

元理学部教員

専門分野：溶液の熱力学量と分子間力の研究

そろそろ「Fabrica」が創刊されて、20年近くまで続いたことは、創刊時の編集委員の一人として、まことに喜ばしいことです。また、大阪市立大学工作技術センターレポートに愛称として「Fabrica」と命名し、その表紙のデザインを担当した者として、その当時を回想しながら、その由来と意味を明らかにして、改めて文章として残したいとおもいます。

「Fabrica」の由来は創刊号の編集後記にラテン語の「作業所」の意味に基づいていると記しましたが、表紙のデザインの渦巻きについての言及はありません。いつか明らかにするとなっております。2001年の「火の祭り」の講演会で、私の定年退職を前にして、その渦の意味をお話しましたが記録に残っているとは思えません。

そもそも、工作技術センターレポートはセンター創立5周年記念事業として、それまでの活動を報告するという単発のレポートとして、当時の原納所長から許可されたものでした。編集委員会の議により、このときの編集委員長（利用者委員長）児玉（後の学長）がこのレポートを年刊にすることを提案し、利用者委員会です承されたものです。Annual\_reportとして恥ずかしくない、大阪市立大学構成員に愛されるものにするために、編集委員会でその愛称と表紙のデザインを数回にわたり持ち寄りましたがまとまりません。「workshop」に代わる何かをと考えていた私は、たまたま、今では、織物・編み物などの意味に使われている「fabric」が、「fiber」（繊維状のもの）に由来すると思われるが、古い意味では動詞として、今の「fabricate」の意味である、製作するという意味で使われていること、それはラテン語の「fibric」（作業する、製作する）に由来し、その場所を意味する名詞としては「fabrica」であることを知りました。これを提案したところ、音の響きが良いことと他に提案がなかったこともあり、愛称を「Fabrica」とすることになりました。ちなみに、後に知ったことですが、ラテン系の言語では、作業する場所・製作する場所を意味する工場を、スペイン語では、そのまま、「fabrica」、イタリア語では、「fabbrica」として、原型のまま残っています。また、フランス語では、「fabrique」、ドイツ語では、「Fabrik」です。今では、工作技術センターレポートの名として、ふさわしい名と自画自賛しております。

次に、表紙のデザインの渦ですが、これは、工作技術センター運営委員会の基本思想であ

る「研究者と技術者との共同作業で新しい研究にもっとも適った研究機器を生み出す」ことを表わそうとしたものです。つまり二本の腕はそれぞれ研究者の要求と技術者の知恵であり、その共同作業の結果、それぞれにその成果が戻り、再生産されることを願ったものです。研究者が単に図面を引いて技術職員に渡して製品を作ってもらうのではなく、折角優秀な技術職員が専属にいるのですから、その機器の作業意図を充分技術職員と検討することによって、より作業意図に沿った機器を作ることが可能であるということを表わしてみた積もりです。また、工作技術センター運営委員会の「基本思想」が「Fabrica」を年次発行をさせてきたのであり、独立機構となった今、工作技術センターの「基本理念」を再確認し、これからもさらに発展することを祈っております。